

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	姫桃合同会議、御姫尊会議、カンファレンスや朝礼を通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供の実施を行い実践に繋げている。	法人の理念は、事務所内に掲示してある。ほかにグループホームの年度目標を作り、目標達成に向けて個人目標も立てている。年2回個人面談を行い目標達成に向けてアドバイスをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	日常的に交流していたがコロナの影響で現在は自粛しています。運営推進会議の資料と共に写真を入れたグループホームでの生活の様子をご家族様、運営推進会議のメンバーへお配りしています。	現在は自粛しているが、近くの保育園のお楽しみ会や運動会を見に行ったり、ボランティアの人をお願いして音楽療法を行った。今年は小学校から歌舞伎の招待もあるので参加を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響で自粛しています。運営推進会議の資料配布とグループホームの運営に関するアンケートのお願いをお送りし反映しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で運営推進会議の開催の代わりに運営実績の報告を行っています。その際にアンケートをお願いし運営に反映している。	コロナ禍で集まることができなかったため、施設内の情報を運営推進会議のメンバーに送信している。アンケートの添付をしたが回答は1件だった。マンネリ化傾向にあるので情報の出し方、資料の作り方を工夫したいとの回答だった。	管理者も変わり心機一転新しい企画をしてマンネリ化が改善していくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	協力関係を築くよう取り組んでいる。申請書についても郵送に頼らず、窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。また、地域包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。	行政の研修会・集まりなどには積極的に参加している。中でも実践者研修は勉強になったとのこと。診療所経由での入所者が多いため、包括支援センターとの交流は今のところ少ない。提出書類はできるだけ行政窓口を持参するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。2か月に一度、法人として全体研修があり、職員は身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。	法人全体の研修を行っていたが、コロナ禍により集まれなくなった。マニュアルに従い定期的にホームのグループ会議で確認している。4月に虐待と身体拘束を合わせ研修会開催の打ち合わせが行われる予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	取り組んでいる。2か月に一度、法人として全体研修があり、職員の理解ができており、常日頃の対応についても注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	活用出来るように支援している。 この地域は社協が窓口になっており、独居のお年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、また本人が希望した場合などは司法書士などに関わって頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に反映させている。常日頃意見を言えるように、玄関に意見箱を設置したり、常時進言できる体制を作っています。また、家族参加型で運営推進会議・納涼祭・クリスマス会を開催していましたが、現在はコロナの影響で参加して頂いておりません。	コロナ禍で今まで定期的に行われたイベントができなかった。意見箱は置いてあるが、出入りが少ないこともありほとんど投稿はないのが実情。苦情や改善希望は直接連絡がある。いただいた意見は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。 月1回の合同ミーティング・各グループホームのミーティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	合同会議や、面談時に意見を聞くようにしている。陰で話することがないよう、できるだけ個人的に呼んで話すようにしている。リーダーに話すことで要望は汲み取られているように見える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。 年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育てる取り組みをしている。 法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取り組みをしている。 行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。但し現在はその機会が減っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている。ご家族・ご本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。 入所時にご本人及びご家族からの要望などをお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなども含め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築いている。 職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみなど一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。 面会（窓越しでの）やスカイプ、電話などでご本人の状況などお話しさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。 以前は近所の方が見えたり、家族の面会など、いついらずしても受け入れており、面会規制はしていなかったが、現在は自粛しています。ご近所の方と敷地内の散歩の時など大きな声でご挨拶させて頂いています。	面会規制があり、以前のような交流は難しいが、敷地内の農園に飼っている山羊を見に来た保育園児と散歩中に交流するのが楽しみになっている。 おひさまクラブの園児とのつながりが深く今は唯一の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	支援に努めている。 レクリエーションや行事では、それぞれの方が出来る事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。また、ボランティアさん（当法人職員）が来所されるときには、全員が参加できるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や支援に努めている。 退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。入所時に家族・本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	入所時に本人家族などから聞き取りした希望がフェイスシートに記録されている。 入所後は日々の会話の中で希望や要望を聞いて経過表に記録している。職員間でこれらを共有して支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している 本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。	家族との交流が難しい中だが、窓越し面談、スカイプ面談、電話などで家族からの情報は得ている。 センター方式によるアセスメントシートへの書き込み、日ごろの利用者の要望なども考慮してプラン作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。 業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノートで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	活かしている。業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノートで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している。 地域とのかかわりを大切に、小学校の運動会や音楽会への参加など行っていたが、現在は自粛しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している。 主治医は法人内の診療所が担当しており、容易に診てもらえる。定期以外の臨時の受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。	主治医は診療所の医師が担当しており、定期の往診以外にも24時間体制で往診してもらうことができる。診療所への入院も可能である。眼科などの専門医への受診は家族に連れて行ってもらうようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。 法人内の訪問看護と連携を図り、常日頃相談して、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。 病院に入院した際にはサマリーにて、こちらの情報を提供して、入院中においては、ムンテラなどに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。 入所時に急変した場合、重度化した場合、この施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んでいただくようにしている。	診療所との連携で看取りも可能だが、入所時に本人家族に説明をして、終末期の医療、急変時の対応など文書に記録している。終末期は診療所に入院する人が多いが、施設で看取った方もある。重度化した時の診療所との連携もよくできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身に付けている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	協力体制を築いている。 スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。区の役員や消防団も参加していたが現在は自粛しています。	土砂災害、水害でハザードマップに載っている地域でもあるので、法人グループとの連携で災害対策は検討されている。食料の備蓄については食品業者に依頼して3日分は常時確保している。又管理についても委託している。	災害の可能性が高い地区でもあるので、地域住民や自治体と特に連携した安全対策の強化を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。 言葉かけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。	利用者の尊厳を基本に特に言葉かけには注意を払い、会議の中でも検討している。排泄時入浴時の肌の露出時にはタオルをかけるなどの気配りを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。 職員サイドで決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問をするなど心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿って支援している。 起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。 家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいる。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	支援している。 好き嫌いを把握し、適した食形態を提案している。また、それぞれの能力に応じて役割分担している。お茶くみや食器拭き、簡単な調理などやっていたいでいる。	基本ごはん、汁物は施設で作り、おかず類は業者のレトルト食品を採用している。好き嫌い、食形態については事前把握しておりできる範囲で対応している。食事を楽しむことができるよう行事メニュー、盆正月など特別メニューの設定をしている。	施設での生活で食事は大きな楽しみの一つでもあるので四季折々、行事などを中心にできるだけ工夫していただく事を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。 食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。献立については法人契約している業者に作成してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している。 毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	支援を行っている。常に排泄チェック表をつけており、その方に合った排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように努力している。実際に要介護5の方をリハビリパンツにてトイレを使用し、2人で介助し排泄を行っている方がいる。	全員の排泄記録を作っている。それぞれの排泄リズムを把握して、トイレでの排泄を促している。ほとんどの方がリハビリパンツを使用、一人だけ布パンツの人がいるが、夜間のトイレ誘導の際は、失禁している方が多い。失敗しても傷つけないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援をしている。現在曜日での入浴になっていますが、入りたくない方は別の時間帯や別の日に入ってもらっています。朝一番が良い方は、そのように対処しています	リフト浴、機械浴はなく、どうしても機械浴が必要な時は隣のハーモニーで入浴してもらっている。通常は一般浴で対応している。平均して週2回は入浴してもらっている。現在見守り程度の方が1名あとは一部介助である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。利用者それぞれの生活パターンを職員は理解しており、休みたい時などは、自室かホールのソファなどで休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認に努めている。それぞれの利用者が服用されている薬については、薬剤情報提供書を称津診療所からいただいております。職員は把握している。服薬に関しては職員が管理、内服までの確認を常に行っている。状態変化時は主治医に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援している。入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力に合った役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	支援していた。地域の歌舞伎見学や小学校や保育園の行事に参加したり、外食で回転ずしや一般の食堂に出かけたり、百貨店やスーパーにでかけ、買い物気分を味わったりして気分転換を図っていたが現在は自粛中です。施設敷地内のお散歩や朝の外気浴を行っています。	コロナ禍で回数は減っているが、ゴミ出し、草取りなどで戸外に出ることもある。近くの山羊小屋で餌やりをしたり、隣の施設に行ったりしている。時間を見つけては戸外に出るようにしている。	できるだけ外出ができるよう努力を重ねていただく事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かったりして、本人の希望・要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。 入居者様が家族や知人などに連絡したい時は電話にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 とかく施設内であると、季節感に疎くなってしまう傾向があるので、月ごとのカレンダーづくりや季節に応じての外出を行い、また、毎日ラジオ体操を行い、廊下を歩行訓練の場として行ったりして居心地良く生活できるように工夫している。	玄関を除いて3方に居室が並んでいて利用者のほとんどは中央の食堂兼居間で生活している。季節を感じてもらうように、カレンダーづくりをしたり外で草むしり、家庭菜園の管理など変化をつけて生活してもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望に沿えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望に沿えるようにしている。	利用者さんの住み慣れた生活空間をできるだけ残せるよう、本人の希望するものは居室に設置している。それぞれの個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が安全に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		